麻布幼稚園だより　６月号

平成27年5月29日　港区立麻布幼稚園　　園長　大島　美知代

「連携して育てる」

園長　大島　美知代

園庭の日差しが強くなってきました。園児は制服のブレザーを脱ぎ、夏の麦わら帽子をかぶっての登園となります。日本の夏は厳しい暑さとなります。幼稚園では園庭の木陰を利用したり、水や砂を使ったりして暑い夏も元気に活動させたいと考えています。

５月には、３歳児は昼食時の活動や砂や水を使っての遊びを始めました。４歳児は今まではみんなで同じ場所で活動し、安定することを目的としていましたが、だいぶ園生活に慣れてきたため、自分で遊び場所を選ぶようにしました。５歳児はバッタ園での虫取り、グリーンロードでのサッカー、プレイルームで大型積木を使った遊び、と活動範囲が広がりました。

幼稚園はいつも保護者に幼稚園での様子を知らせ、幼児を今の姿を受け止め、幼児期の成長を見通した幼稚園と家庭の役割を伝え、連携して子育てをしたいと考えています。私は幼稚園と保護者が**「連携して育てる」**場面を見つけました。とてもこの場面を見て嬉しく感じました。ほんの一例ですが下記に紹介します。

お弁当の準備に手間取っていた幼児の保護者に、担任は弁当の支度について様々なお願いをしました。幼児がスムーズに支度ができ、楽しく食事をしてほしい、と考えたからです。保護者は我が子の家庭とは違う姿を聞いて戸惑っていたようです。しかし、担任の話を聞いて、そのお願いに応えてくれました。その幼児はとてもスムーズに弁当の活動ができ、嬉しそうに食事をすることができるようになりました。

次の事例です。その幼児は保護者の迎えがとても嬉しく、帰りの会で話を聞いていても落ち着かなくなる様子が見られました。落ち着いてみんなと一緒に話を聞かせたいと担任は考えました。そのことをお願いすると、迎えに来た時はなるべく姿を見せないようにすることを約束し、その上我が子が順番を守り並んで迎えを待つことができるようにしたいと話してくれました。担任とその保護者が話し合って共通理解をし、同じ方向性をもつことができました。その結果は言うまでもありません。

また他の事例です。毎朝の登園がぎりぎりで飛び込んでくる幼児がいました。そんな日は朝のうちは浮かない表情で、元気がありません。担任はぜひ保護者に協力をお願いしました。登園後の様子を細かく伝えたのです。最近その幼児は、門が空いている時間内ににこにこして登園しています。朝の支度も早く、活動も落ち着いてきました。

辞書で「連携」を調べました。

連携とは…目的を同じくするもの同士が連絡し、協力し合って何かをすること。上記の事例はまさに**「連携して育てる」事例です。**

充実した幼児期を過ごさせるのもこの連携にかかっていると言えます。先を見通し、幼稚園と家庭の役割を意識しましょう。幼児を取り巻く私たち大人が学んでいくことが大切です。